

# 決意を新たにして、老朽高浜原発1、2号機、美浜原発3号機の再稼働を阻止しよう！

## 地震の時期、場所、規模は予測不能であることが、また実証されました

6日未明に北海道で発生した大地震・北海道胆振(いぶり)東部地震で、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

この地震は、地震の時期、場所、規模を、現代科学・技術で予知できないことを、再認識させました。阪神・淡路大地震、東日本大地震、熊本・大分大地震、大阪北部大地震の何れも、予知できませんでした。

しかも、今回の大地震は、北海道全域の大停電も引き起こしました(ブラックアウトと言われています)。その原因は、道内半分の電力を供給する苫東厚真(とまとうあつま)火力発電所、1、2号機のボイラー配管破損などによって、4号機を含む全発電機が緊急停止したことに端を発しています。なお、この発電所は、震源近くに立地し、1、2、4号機を保有し、総出力165万kWです。3号機は、配管の摩耗や損傷が多発し、2005年に廃止されています。発電機の一極集中があだになったと言えます。

一方、震源から約120 km 西方にある泊原子力発電所の外部電源が、この停電によって断たれました(喪失)。泊原発は、1号機(57.9万kW:1989年運転開始)、2号機(57.9万kW:1991年運転開始)、3号機(91.2万kW:2009年運転開始)の3基の加圧水型(PWR)原子炉が集中する原発ですが、現在定期点検中で、原発圧力容器内に核燃料はなく、核燃料は、燃料プールに保管されています。北海道電力は、外部電源喪失時には、非常用電源に切り替えて、燃料プールを冷却したとしています。しかし、もし原発が運転されていたら、最大で3基の原発と燃料プールを同時に非常用電源で冷却しなければならず、果たして可能なのか?また、地震の揺れがもう少し大きく、苫東厚真火発のように配管破損を生じていたら、などを考えると、肝を冷やさざるを得ません。

今回の地震や先の台風は、自然の猛威の前には、現在科学・技術が太刀打ちできるものではないこと、とくに、発電所や空港などの集中型巨大設備は極めて脆弱であることを明らかにしています。

地震、火山、台風が多発する地域に、万が一にも重大事故を起こしてはならない原発は、あってはならないことも教えています。

## 関電は、トラブル続きでも原発を稼働させています

関電は、定期検査中であつた高浜原発4号機を8月31日に起動(いわゆる再稼働)させました。4号機では、6月22日に、蒸気発生器伝熱管に傷が見つかり、8月19日には、事故時に原子炉に冷却水を補給するポンプが油漏れを起こし、20日には、温度計差込部から噴出した微量放射性物質を含む蒸気が原子炉建屋から漏れ出るトラブルを起こしています。

このことは、運転開始後33年を超えた高浜原発4号機のような原発では、色々な部分の老朽化が進んでいることを示し、その原発を運転しようとする関電に、原発は万が一にも事故を起こしてはならないとする緊張感も体制もないこと

を示しています。また、原子力規制委員会が「新規性基準」に適合とした原発が、再稼働時に次々にトラブルを起こしている事実は、「新規性基準」は安全を保障するものとは程遠く、規制委員会の審査は、いい加減極まりないことを示しています。

それでも、関電は、トラブル後わずか10日目の8月31日に高浜4号機の再稼働を強行し、8月3日から定期検査入りした高浜3号機を11月に起動させるといわれています。許してはなりません。

高浜原発3、4号機は運転期間が33年を超えた老朽原発で、しかも混合酸化物(MOX)燃料を用いてプルサーマル運転をしています。危険極まりなく、ウラン燃料に比べて、長期の水冷保管を要し、長期にわたって放射線量、発熱量が下がらない使用済み核燃料を残す発電法です。若狭の原発の使用済み燃料プールは7割以上が埋まっていますが、使用済み燃料の行き場は、目途も立っていません。しかも、使用済み燃料プールは、原子炉本体に比べて、格段に脆弱です。それにもかかわらず、関電は、長期保管を要するMOXも含む使用済み燃料を増やそうとしているのです。無謀、無計画極まりないことです。

## 関電は40年越え老朽高浜原発1、2号機、美浜原発3号機を再稼働をし、全国の老朽原発再稼働を先導しようとしています

関電は、来年以降、老朽原発高浜1号機(来年で45年越え)、2号機(来年で44年越え)、美浜原発3号機(来年で43年越え)を再稼働させ、全国の老朽原発の再稼働を先導しようとしています。安倍政権のエネルギー政策に迎合するものです。

ところで、老朽原発の安全対策費は、福島事故の大きな犠牲の上に、また、反原発の闘いの故に、高騰し続け、そのため、福島事故以降9基の老朽原発の廃炉が決定しています(福島第1、第2を含めれば、廃炉は19基)。

このことを考えれば、安全対策費が膨大で、経済的にも成り立たない、老朽原発の運転を関電に断念させることは、私たちの闘い如何では、可能であろうと考えます。老朽原発運転を阻止し、原発新設を阻止すれば、最悪でも、2033年には、若狭の原発はゼロになります。もちろん、その前に重大事故が起こる可能性もありますから、断固として、原発の早期全廃を勝ち取らなければなりません。

## 関西、福井の総力を結集して、高浜、美浜の老朽原発を廃炉に追い込みましょう！

そのための行動を討議するために、下記の拡大実行委員会を開催します。

老朽原発の再稼働を何としても阻止したいとお考えの方なら、どなたでも、ご参加いただけます。叡智を集めて大闘争を準備し、老朽原発を廃炉に追い込みましょう！

## 老朽原発再稼働を阻止するために！ 行動を討議する「拡大実行委員会」

- ◆とき：10月8日(月 休) 14:00~17:00
- ◆ところ：京都テルサ(京都駅から南へ徒歩15分、市バス九条車庫南)
- ★(アクセス) <http://www.kyoto-terra.or.jp/parking/>
- ◆主催：「原発うごかすな！実行委員会@関西・福井」
- ◆連絡先：木原(090-1965-7102; [kiharas-chem@zeus.eonet.ne.jp](mailto:kiharas-chem@zeus.eonet.ne.jp))

# 7月-8月の若狭、関西での「原発うごかすな！」行動の報告

ご参加、ご支援を戴いた皆様ありがとうございました。「原発うごかすな実行委員会@関西・福井」

## 公開質問状運動

2018年7月28日原発立地町3町（美浜、おおい、高浜）町長へ「原発の現状と将来に関わる公開質問状」を提出。公開質問状をアメーバデモで、若狭全域に配布8月10日、17日に回答を得る。回答をチラシにして、アメーバデモで配布中。

## 8月22日高浜原発4号機事故糾弾闘争 (55名参加)



**原発前で50人デモ**  
トラブルに廃炉求め  
高浜 県内外で活動する脱原発50人が22日、関西電力高浜原発4号機前で、デモ行進する脱原発団体のメンバーら（高浜町）

前デモ行進した。定期検査中の高浜原発4号機で20日にトラブルがあったばかりで、参加者たちは「原発がなくても電力は足りている」と訴えた。原子炉容器の上層に設けた温度計の接続部分から、放射性物質を含む微量の蒸気が漏れていた。これを受け、参加者たちは「高浜原発このまま廃炉！」と

2018年8月23日 読売新聞朝刊

**原発の存続考え分かれる**  
反対団体質問状 立地3町長が回答

関西電力美浜、大飯、高浜原子力発電所がそれぞれ立地する美浜、おおい、高浜各町の町長が、原発グループからの原発に関する質問状に回答した。原発はいつまで存続すると考えるか」という問いに対し、「必要とされる限り」法定の上限までと答えたが分かれた。質問状は「原発うごかすな」実行委員会@関西・福井」が提出。美浜、おおい両町は10日、高浜町は17日、いずれも町長の見解を担当者口頭で伝えた。原発の存続について、美浜町の山口治太郎町長は「温室効果ガス削減などの課題が解決されるまでは必要」との考えを示した。おおい町の中塚寛町長は「原発が立地する自治体は望むからではなく、国のエネルギー政策上必要とされる限り、存続すると考えている」と答えた。ただ、新増設やリプレース（建て替え）など存続の具体策については、両町長とも「国に示してほしい」と望んだ。東京電力福島第一原発事故後の法改正で、原発の運転期間は40年と規定。しかし、原子力規制委員会が認可すれば60年まで運転でき、美浜3号機と高浜1、2号機は延長が認められた。高浜町の野瀬豊町長は「高浜町の原発でも40年か60年が存続期間と認識して

2018年8月23日 読売新聞朝刊

**原発巡る質問状**  
嶺南3町へ提出  
反対団体

原発の現状や将来に関する公開質問状を県内の原発立地町3町へ提出した。高浜の3町へ提出した。質問状では、若狭地域や使用済み核燃料問題、脱原発に向かう世界の情勢について指摘している。その上で原発の廃止

2018年7月19日 福井新聞朝刊

## 8月25日高浜原発このまま廃炉！関電包囲全国集会 (400名参加)



**原発廃炉訴え 市民400人集会**  
関西電力本店前

原発に反対する市民らが25日、大阪市北区の関西電力本店前で、廃炉を求める声を上げた。関西電力高浜4号機（福井県高浜町）は定期検査中の20日に微量の放射能を含む蒸気漏れを起

放射能を含む蒸気漏れを起し、起動が延期された。参加者は御堂筋などをデモ行進した。福井の市民団体などが呼びかけ、約400人が参加。高浜4号機をめぐるのは、関西電力大飯原発3号機（同県おおい町）と同時に重大事故が起きたと想定する総合防災訓練が25、26両日に実施された。関西電力で、「若狭の原発をいい加減なことを示している」と訴えた。（萩原千明）

2018年8月23日 読売新聞朝刊

**4号再開に反対 団体が抗議デモ**  
高浜

高浜町の関西電力高浜原発周辺で22日、反原発団体でつくる「原発うごかすな」実行委員会@関西・福井」が定期検査中の4号機の運転再開などに抗議するデモ行進を行った。写真。県内外から55人（主催者発表）が参加し、横断



2018年8月23日 読売新聞朝刊

## 8月31日高浜原発4号機再稼働阻止闘争 (45名参加)



**4号機の再稼働 未来を奪うな**  
市民ら反対訴え

関西電力高浜原発4号機（高浜町）が31日、再稼働したことを受け、原発に反対する市民団体のメンバーら約30人が同原発前で進んで反対をアピールした。反原発団体でつくる実行委員会が呼びかけた。近くの駐車場から原発のゲートまで「老朽化した高浜原発を廃炉に」「子どもたちの未来を奪うな」などと氣勢を上げた。構成団体の一つ「若狭の原発を考える会」の木原壮林さんは「放射能を帯びた蒸気が漏れるなどトラブルが相次いでいる。4号機の再稼働に断固抗議したい」と話した。（菱山出）

2018年9月1日 朝日新聞朝刊